

令和3年3月1日

関係者 各位

本学における対面での課外活動の規制緩和について

北海道大学大学祭全学実行委員会

実行委員長 小林 俊介

拝啓 向春の候、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の世界的感染を受け、当実行委員会は2020年4月に第62回（2020年度）北大祭の開催延期を決定し、同7月においても新型コロナウイルス感染症の収束が見込まれていないことから当該年度の北大祭開催を断念いたしました。第63回（2021年度）北大祭においても、全面的なオンライン形式での開催も選択肢としてはあるものの、それでは北大祭の魅力が著しく低下してしまうこと、第64回（2022年度）北大祭以降への接続が極めて困難になることなどを理由に、可能な限り対面で開催することを希望しております。しかしながら現時点の新型コロナウイルス感染拡大防止のための北海道大学の行動指針（BCP）レベル（以下、BCPレベル）2以上の「学生の課外活動：全面禁止とする。」が4月まで継続してしまうと、6月開催断念がほぼ確実となるだけでなく秋における延期開催可能性まで低下してしまいます。

したがって今年度においては北海道大学大学祭全学実行委員会として、本学における学生の課外活動の規制緩和を要望いたします。詳細は下記のとおりです。ご一読の上ご検討のほどよろしくお願いいたします。

敬具

記

<概要>

要望内容：本学における対面での課外活動を認可すること。

期 間：2021年4月1日（木）から同6月30日（水）まで。

対 象：公認・非公認を問わず、本学における全ての学生団体。

<注意>

1. 当実行委員会の要望は（*）「上記期間・対象において、本学における対面での課外活動を認可すること」であって、「本学当局の定めるBCPレベルを1以下へと低下させること」ではない。例えば「BCPレベル2における『学生の課外活動：全面禁止とする。』を改める」等、（*）が達成される限りにおいてはその手段は指定しない。
2. 本要望が認められた場合は、昨年8月17日以降課外活動が部分的に認められた場合と同様、活動を希望する本学の学生団体は予め活動計画およびそれに応じた新型コロナウイルス感染症対策を学務部学生支援課学生総合担当へと届け出、認められる必要がある。そのほか、本学当局の指定する条件を満たした学生団体のみが活動を許可される。
3. 本要望が認められた場合は、上記期間中においても、新型コロナウイルス感染症の感染情勢に応じて本要望の承諾が取り消される可能性があることを当実行委員会は理解する。

<参考：要望に至った経緯>

2020年度においては4月における6月開催の自粛・秋の開催に向けた延期判断の際、および7月における年度内の開催中止判断の際ともに、当実行委員会として本学当局に対し課外活動の規制緩和を求めることはしませんでした。しかしながら2021年度においては、次頁に挙げる3点を主な理由として課外活動の規制緩和を要望するという判断に至りました。

1. **第 63 回北大祭を対面形式にて開催できない場合、北大祭の魅力が著しく低下してしまうことに加え、第 64 回（2022 年度）以降の北大祭への接続が極めて困難になってしまうこと。**

皆様もご存じのとおり、北大祭は中央道路に並ぶ数多くの模擬店と屋内における多様な学術企画・文化発表、そしてステージにおける各種パフォーマンスによって構成されております。特にはじめに挙げた模擬店などは新型コロナウイルス感染症の対策が難しいところではありますが、卓上パーティション・アルコール消毒液等を設置した来場者向けの食事スペースを設ける等の対策を立案・検討し学務部学生支援課と合同で検討を進めており、6 月における感染情勢にもよりますが決して実施不可能とは言えません。また対面形式で実施するからこそ地域の来場者一本学学生間および本学学生同士の交流があり、大学祭として社会に対し学術的・文化的な貢献がなされております。また、対面での開催でない限りにおいて、北大祭が学生の文化的活動の発現の場であるとは言えません。

加えて、当実行委員会は第 62 回（2020 年度）北大祭が中止となったことにより現時点においても深刻な人手不足、運営能力の低下に悩まされております。第 63 回北大祭においては本学学生一般より公募する「当日ボランティア」制度を設ける等によって新型コロナウイルス感染症の対策を講じつつ開催が可能ですが、仮にこちらの対面形式での開催が不可能となると、第 64 回（2022 年度）北大祭以降の北大祭への接続が困難を極めることとなります。具体的に現状を共有いたしますと、北大祭を主体的に運営したことがある学年は現在の実行委員長である小林の 1 つ上の学年（2021 年 3 月現在で学部 3 年生）までであり、当実行委員会の構成員の 95%以上を占める小林以下（学部 1・2 年生）は学部 1 年生の時に末端の構成員として北大祭を経験したか、北大祭を見たこともない者ばかりというのが現状です。仮に第 63 回（2021 年度）北大祭の対面開催ができないと、第 64 回（2022 年度）以降の北大祭の魅力が低下するばかりではなく、引き継ぎが不十分であることによって防災・衛生など新型コロナウイルス感染症とは関係のない面で深刻な問題が発生してしまう危険性があります。

2. **仮に第 63 回北大祭の対面形式での開催が可能となった場合においても、本学の学生団体一般の対面課外活動が認められていない場合においては、北大祭への北大生の参加・来場が難しいこと。**

第 63 回北大祭の対面開催を当面の至上命題として掲げる当実行委員会としては、当実行委員会や当実行委員会を構成する各祭実行委員会の「北大祭に関する課外活動」に焦点を当てて要望することも選択肢として検討しておりました。しかしながら上記のとおり北大祭は本学学生が各々の文化的活動を発現し多様な人々と交流することを主要な価値として掲げていることから、可能な限り多くの本学の学生が第 63 回北大祭に参加し来場することができるよう、本学の学生団体一般における課外活動の規制緩和を要望いたします。

3. **仮に第 63 回北大祭を全面的なオンライン形式にて開催する場合においても、準備のためにある程度の対面課外活動が認められている必要があること。**

上記のとおり当実行委員会は第 63 回北大祭の対面形式での開催を第一に希望しておりますが、情勢が振るわず全ての企画をオンラインにて実施、つまり第 63 回北大祭を全面的なオンライン形式にて開催する可能性も検討しております。全面的なオンライン形式での開催となりますと、いかなる代替手段も取り得ない食品提供などは断念し研究発表・文化発表の録画配信・LIVE 配信等を企画の主軸に据えることを考えております。しかしながら対面での来場者招致を廃し、そういったオンラインでの配信企画を実施する場合においても、それに向けた準備や、LIVE 配信であれば北大祭期間中において、本学における対面での課外活動が認められている必要があります。

以上